

令和6年度 事業報告書

- (1) 学校目標
- (2) 教学改革計画
- (3) 学生募集対策
- (4) 外部資金獲得
- (5) 人事政策
- (6) 経費抑制計画
- (7) 施設設備整備計画
- (8) その他

武蔵野調理師専門学校

(1) 学校目標

①学校スローガン

学生ファースト
～学校満足度の向上～

学校目標である、学生ファーストへ向けての基本的な姿勢をつくり上げることはできた。学生が学校生活を楽しみ充実して過ごせる環境の醸成を職員一丸となり実現していくという、目標の共有は達成できたと考える。学校の基本方針を固め確立することに成功できた。

セクションごとの細かい問題にも対応しやすくなっており、職員の働く環境を整えるシステムづくりも構築されつつあると考える。引き続き、学生からの声も、職員からの声も上がりやすい、開かれた明るい環境づくりに邁進して行きたい。

②目標達成のための優先課題と活動概要

実習職員が担任を兼務するようになり 2 年目、教職員組織の組み換えが学生の不利益につながらないようサービスは提供できた。

就職に関しては、2 年課程の全学生が校外研修に参加したことで、産学連携が今まで以上に強固なものになり、研修先が内定先になっていく案件が増加し安定した。

懸案であった外部資金獲得も、海外食材のキャンペーンにともなう料理講習会や TV 撮影等への貸出を積極的に受託。ウーファー同窓会をチャンネルとした製菓講習会を開催し、日本料理短期講習講座も実現に向け動き出したことで、事業としての形が見え始めた。また寄付金に対する返礼品の選定も完成し、運用開始の運びとなった。

a. 農業体験の実現

吉見町横田農園における、先着希望者 23 名によるいちご狩りの実施と、収穫された苺を使った学生によるスイーツの開発を行なえた。また、長野県白馬村における新たな新入生研修で、田植え体験と麦みそ作りを実施できる運びとなった。

b. EE ディスカバリーによる学生サポーター活動の推進

EE ディスカバリーとは別に、新たな課外活動部スイーツ・ラボを創部し、豊島区と吉見町主催の各種イベントへの物品販売参加、客船飛鳥Ⅱへのクリスマス・ディスプレイの提供など、活発な活動が行えた。また、両活動部の学生を中心とした、体験入学会における学生によるデモンストレーションも実現でき、一定の成果を残せた。

(2) 教学改革

①中期計画に基づく実施計画

学生ファーストを掲げ、新組織で実施運用してきた。実施できなかった項目もあるが、職員個々も意識して実施できたのではないかと感じている。

a. 教育の可視化（プロジェクターの設置）

授業で使用頻度も多くなってきている。しかしながら増設するに至らなかった。教室に一つは設置できるようにしていきたい。

b. 教職員研修・担任力強化のための研修実施

毎年の課題である。外部での研修なども積極的に参加できる環境を構築していきたい。

②カリキュラム改革等

2年制課程の科の変更ができるよう、新カリキュラムを開設することができた。

a. 高度調理製菓科新カリキュラム「環境と食」開講

環境と食の新しい科目も問題なく終えることができた。総合学園祭でも成果を披露することができた。学生自身も様々な気づきがある内容であった。

b. 高度調理製菓科新カリキュラム「校外研修」の開講

校外研修も滞りなく実施ができた。

③キャリア支援・就職支援

2年制の高度調理経営科は30年来、校外実習をカリキュラムとして実施していたが、高度調理経営科の中国料理専攻開講1年目として校外実習生として、約1か月現場体験・高度調理製菓科約2週間の校外実習体験は職業の見え方が具体化し、進路を導く成果となった。2年制の優位性を高められる教育カリキュラムと思う。職業意識と進路選択のきっかけづくりとなる。

産学連携がホテル関係では構築されつつあるので、現場の受け入れも安定化してきた。

また、任意のインターンシップは専門性をより発見できこちらも継続し進めたい制度である。企業採担当者との関係強化に努めたい。

④学生支援・中途退学対策

学則を見直し、頭髪や調理師科の服装も社会人としてのマナーを大切にしながらも緩和したことで、通いやすい環境づくりを行えた。

(3) 学生募集対策

①中期計画に基づく実施計画

a. SNS の活用

インスタグラムなどの発信は限られた人員でしかできていないのが現状である。学校の特色を学校全体で発信できるようにしていかななくてはならない。

b. 外部依頼の協力

メディアからの依頼も多く、積極的に活動することができた。インフルエンサーを活用するなど高校生に広く学校を認知してもらうことができた。

②体験入学・学校説明会等

毎回の体験入学を精査し、より良くしていこうという取り組みが伺えた年度であった。常に今のニーズをとらえ、新しいことに挑戦していきたい。

a. 体験入学

体験入学やイベントで卒業生を招き実施することができた。

- ・エキリーブル 高橋萌さん
- ・アクサンクルール 竹内菜摘さん

b. 模擬授業

模擬授業や学校説明会にも積極的に参加することができた。引き続き対応していきたい。

(4) 外部資金獲得

①中期計画に基づく実施計画

調理師専門学校では、講習会を夏に開催。世界大会優勝者で卒業生でもある高橋萌氏の試食付きの講習を開いた。

令和7年度は体制が変化する中でも、試みることができることから実施していく。
また、卒業生ネットワークを構築している「ウーファー」のプラットフォームを利用し、情報の発信に努めていくこととする。

a. 講習会の実施

お菓子の世界大会であるクープドモンドの優勝者であり、卒業生の高橋萌氏による講習会を実施。イベンターとウーファーを利用し、運営と集客を行った。

②その他の取り組み

a. 貸し教室

施設を貸すことで外部資金を獲得

コンクール 6 社

テレビ撮影 4 社

講習会・料理教室 5 社

(5) 人事政策

①中期計画に基づく実施計画

令和 8 年度の収支均衡化の達成に向けた教職員組織のスリム化は順調に進んでおり、それに伴う喫緊の課題として解決が求められていた業務の再分担も、試行錯誤の中ではあるが着実に進んでいる。

②組織編制・要員計画

教務職員と実習職員のペア担任での運営であったが、一部例外となる運用もあり、次年度への課題としたい。

実習各セクションにおいて担任業務への支援体制をしっかりと敷いてくれたおかげで、職員の配置は遺漏なく行え、学生へのサポートも問題なく行えたと考える。

③教職員研修・能力開発

毎年の課題となっている案件だが、個人の取り組みに任せるところとなってしまった。

④その他の取り組み

非常勤講師の契約満了年齢を 75 歳に設定した。後任は研究職者向け求人サイトで公募した結果、講師陣の大幅な若返りが達成できた。

(6) 経費削減計画

①中期計画に基づく実施計画

物価の高騰や入学生の減少の中で職員も危機感を抱きながら経費削減に努めることができた。

a. 実習食材費

物価高騰の中、包丁数を減らすなど学生の負担を減らすことができた。食材仕入れに関しても相見積もりを取るなど経費削減に努めた。

b. 衛生用品、クリーニング

クリーニングの量が年間を通して多い。コックコート類に仕立てを変更するなどの対応を実施した。また、より安く企業の選定に努めた。

(7) 施設設備整備計画

①中期計画に基づく実施計画

未改修であったトイレの改修工事、サービスルームカーペットの張り替え及びエレベーター周りの修繕、階段タイルの張り替えと修復、また全教室の学習机、椅子、教卓、教壇の入れ替え等、かねてより老朽化が問題されてきた箇所のほぼすべての修復・修繕が終了できた。

②その他の取り組み

当初予定されていた、1人1台実習室の給湯管の水漏れ修理にともなう全面改装は、3階日本料理実習室の工事を優先させたため、次年度へ持ち越しとなった。

(8) その他

①社会貢献・地域貢献活動

西部子供支援センターと連携した EE ディスカバリーを中心とした、各種ボランティア活動への協力。豊島区・吉見町主催の各種イベントへの新規部活スイーツ・ラボでの参加により、地域連携への取り組みの素地はできあがった。

今後はメンター・メンティー制度を充実させるべく、部活動を通じた先輩から後輩への引継ぎを密に行っていくことで、イベント参加を調理師学校の伝統行事に発展させ、部活動が学校の新たな魅力となるようにしていく。

②その他の取り組み

後藤学園 4 校連携事業として、ファッション校の参加イベントへのスイーツ、スープ販売でのコラボ参加、短期大学、健康栄養専攻科の学生へ向けた調理実習の開催を継続して行えた。